

めあて

太陽と月、地球の関係を考えよう。

本時のねらい

夏休みの宿題で、3日おきに同じ時刻、同じ場所で月の形と位置を観察するようにしていた。その宿題のふりかえりより、月の形が変わるのは、「太陽と月の関係」、「地球が回っているから」という意見が多くみられた。中には、「地球のかげになっているから」と予想する児童も数名みられた。本時は江戸時代の資料をよむことでさらに宇宙へ興味をもてるように導入とする。

本時の展開（ 1 / 8 時）

学習活動	指導と留意点
・夏休みの宿題を振り返る。 ・太陽が地球の周りを回っているのか、地球が太陽の周りを回っているのか今の自分の考えをロイロにまとめる。	・自分の宿題と友だちの宿題を比較する。
太陽と月、地球の位置関係を考えてみよう。	
・江戸時代の資料を自分で読み、昔の日本、ヨーロッパでは、どのように考えられていたのかを探す。 ・資料を読んで考えた、太陽と地球、月の位置関係を図や絵で示し、文章で表現する。 ・太陽の周りを地球が回っているのか、地球の周りを太陽が回っているのか、今の自分の考えを挙手する。	・資料には、天動説、地動説のどちらもが紹介されているので、児童が資料のどの図を見て、より妥当だと判断しているのか注意しながら見守る。 ・ロイロノートを使ってまとめさせる。 ・資料を読む前後の違いを意識する。

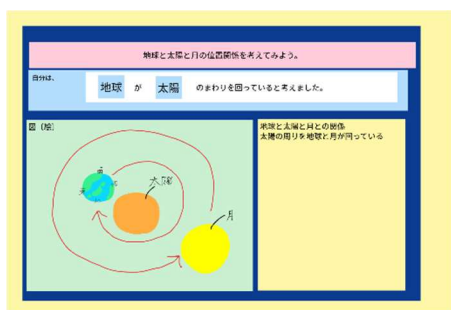


地球全圖 [2]
デキユウゼンズ

国立国会図書館デジタルコレクション収蔵、『地球全圖 [2]』PDM,
<https://jpsearch.go.jp/item/dignl-2586671>



児童のふりかえり



授業者のふりかえり

小さい時からずっと当たり前にあるものとして過ごしていた太陽と月に疑問をもち、興味や関心を引き出せたように思いました。

また、デジタルアーカイブを使うことで、江戸時代の文章から、自分の知りたい情報を探し、読み解こうとして取り組むことができ、理科だけにかかわらず教科横断的な取り組みになったように思います。

参考史料

司馬江漢「地球全図略説」(<https://jpsearch.go.jp/item/dignl-2586671>)